

【社会福祉法人東京光の家 総括貸借対照表】

平成24年3月31日現在 (単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	498,587	流動負債	60,633
現金預金	364,453	未払金	35,171
未収金	109,527	預り金	6,388
立替金	408	経理区分間借入金	12,503
経理区分間貸付金	12,503	会計単位間借入金	6,569
会計単位間貸付金	6,569		
商品・製品	3,590		
原材料	1,534	固定負債	110,482
固定資産	2,355,135	設備資金借入金	39,960
基本財産	1,076,822	退職給与引当金	70,522
土地	3,630	負債の部合計	171,115
建物	1,073,192	純資産の部	
その他の固定資産	1,278,312	基本金	418,832
土地	164,300	国庫補助金等特別積立金	439,526
建物	16,485	その他の積立金	995,595
機械及び装置	11,240	人件費積立金	304,500
車輻運搬具	0	建設積立金	100,000
器具及び備品	19,228	施設整備等積立金	433,130
措置施設繰越特定預金	328,000	その他の積立金	152,500
施設整備積立預金	255,130	工賃変動積立金	2,465
人件費積立預金	154,500	設備整備等積立金	3,000
建設積立特定預金	100,000	次期繰越活動収支差額	828,652
その他の積立特定預金	152,500	次期繰越活動収支差額	828,652
工賃変動積立預金	2,465	(うち当期活動収支差額)	240,958
設備整備等積立預金	3,000		
その他の固定資産	71,463	純資産の部合計	2,682,606
資産の部合計	2,853,722	負債及び純資産の部合計	2,853,722

脚注：減価償却費の累計額 1,074,490千円
注記：固定資産の減価償却の方法…定額法

平成二三年度
社会福祉法人 東京光の家 事業報告

はじめに
～総括的報告～

又、事業報告をする時を迎えました。

日頃は、私も東京光の家がおこなっている視覚障害者のための福祉事業全般に対し、格別なるご高配のもとご指導ご鞭撻ご支援を賜り心から感謝申し上げます。

皆様の温かいご援助のお蔭

で、事業全体も滞り無く取り運ばれ、微力ながらも課されている社会的責任を果たすことができました。又、各事業体施設で生活する利用者たちも、元気で明るく一日一日を過ごすことが出来、諸訓練に励みながら自立に向けて頑張っているところ です。

以下平成二三年度の事業状況のご報告をさせていただきます。

【社会福祉法人 東京光の家 総括資金収支計算書】

(自)平成23年4月1日 (至)平成24年3月31日 (単位：千円)

科目	金額
就労支援事業収入計	43,033
就労支援事業支出計	42,376
就労支援事業活動資金収支差額	656
経常活動及び福祉事業収入計	1,370,303
自立支援費等収入	581,708
利用料収入	1,952
措置費収入	199,493
私的契約利用料収入	58,412
補助事業等収入	10,678
経常経費補助金収入	303,106
寄付金収入	3,979
雑収入	26,355
借入金利息補助金収入	692
受取利息配当金収入	640
会計単位間繰入金収入	91,000
経理区分間繰入金収入	92,285
経常活動及び福祉事業支出計	1,126,172
人件費支出	730,222
事務費支出	75,847
事業費支出	136,124
借入金利息支出	692
経理区分間繰入金支出	92,285
会計単位間繰入金支出	91,000
経常活動福祉事業活動資金収支差額	244,131
施設整備等収入計(※賛助会寄付金含む)	21,054
施設整備等支出計	185,058
施設整備等資金収支差額	△ 164,003
財務収入計	104,952
財務支出計	73,260
財務活動資金収支差額	31,692
当期資金収支差額合計	112,477
当期末支払資金残高	432,829

【社会福祉法人 東京光の家 総括事業活動収支計算書】

(自)平成23年4月1日 (至)平成24年3月31日 (単位：千円)

科目	金額
就労支援事業活動収入計	43,033
就労支援事業活動支出計	42,722
就労支援事業活動収支差額	310
事業活動及び福祉事業活動収入計	1,206,311
自立支援費等収入	581,708
利用料収入	1,952
措置費収入	199,493
私的契約利用料収入	58,412
補助事業等収入	10,678
経常経費補助金収入	303,106
寄付金収入	3,979
雑収入	25,115
国庫補助金等特別積立金取崩額(事業)	22,285
事業活動及び福祉事業活動支出計	985,432
人件費支出	730,222
事務費支出	66,792
事業費支出	136,124
減価償却費	44,477
引当金繰入	7,814
事業活動及び福祉事業活動収支差額	221,298
事業活動外収入計	184,617
事業活動外支出計	183,977
事業活動外収支差額	640
経常収支差額	222,250
特別収入計(※賛助会寄付金含む)	21,054
特別支出計	2,346
特別収支差額	18,708
当期活動収支差額	240,958
前期繰越活動収支差額	546,312
当期末繰越活動収支差額	787,270
次期繰越活動収支差額	828,652

※賛助会寄付金額 20,759千円

【光の家新生園 資金収支計算書】

科 目	金 額
経常収入計	391,480
自立支援費等収入	304,085
補助事業等収入	5,545
経常経費補助金収入	77,479
寄付金収入	431
雑収入	3,804
受取利息配当金収入	134
経常支出計	381,246
人件費支出	239,349
事務費支出	17,776
事業費支出	33,120
経理区分間繰入金支出	1,000
会計単位間繰入金支出	90,000
経常活動資金収支差額	10,233
施設整備等収入計	0
施設整備等支出計	124
施設整備等資金収支差額	△ 124
財務収入計	41,020
財務支出計	500
財務活動資金収支差額	40,520
当期資金収支差額合計	50,629
当期末支払資金残高	129,720

【光の家栄光園 資金収支計算書】

科 目	金 額
就労支援事業収入計	43,033
就労支援事業支出計	42,376
就労支援事業活動資金収支差額	656
福祉事業収入計	345,401
自立支援費等収入	277,623
補助事業等収入	5,097
経常経費補助金収入	58,539
寄付金収入	561
雑収入	3,429
受取利息配当金収入	150
福祉事業支出計	351,023
人件費支出	194,588
事務費支出	22,929
事業費支出	41,720
経理区分間繰入金支出	90,785
会計単位間繰入金支出	1,000
福祉事業活動資金収支差額	△ 5,622
施設整備等収入計	500
施設整備等支出計	3,111
施設整備等資金収支差額	△ 2,611
財務収入計	63,631
財務支出計	1,500
財務活動資金収支差額	62,131
当期資金収支差額合計	54,554
当期末支払資金残高	149,750

【光の家就労ホーム 資金収支計算書】

科 目	金 額
福祉事業収入計	180,785
会計単位間繰入金収入	90,000
経理区分間繰入金収入	90,785
福祉事業支出計	0
福祉事業活動資金収支差額	180,785
施設整備等収入計	0
施設整備等支出計	180,785
施設整備等資金収支差額	△ 180,785
当期資金収支差額合計	0
当期末支払資金残高	0

【公益事業特別会計 資金収支計算書】

同行援護従業者養成研修事業

科 目	金 額
経常収入計	506
雑収入	506
経常支出計	255
事務費支出	255
経常活動資金収支差額	251
当期資金収支差額合計	251
当期末支払資金残高	2,165

【法人本部 資金収支計算書】

科 目	金 額
経常収入計	16,920
補助事業等収入	36
寄付金収入	2,522
雑収入	11,724
受取利息配当金収入	138
会計単位間繰入金収入	1,000
経理区分間繰入金収入	1,500
経常支出計	14,757
事務費支出	14,757
経常活動資金収支差額	2,163
施設整備等収入計	20,554
施設整備等支出計	507
施設整備等資金収支差額	20,047
財務収入計	300
財務支出計	18,750
財務活動資金収支差額	△ 18,450
当期資金収支差額合計	3,761
当期末支払資金残高	64,537

【光の家神愛園 資金収支計算書】

科 目	金 額
経常収入計	425,327
措置費収入	199,493
事務費収入	179,331
事業費収入	20,161
私的契約利用料収入	58,412
経常経費補助金収入	160,430
寄付金収入	346
雑収入	5,740
雑収入(務)	4,751
雑収入(業)	989
借入金利息補助金収入	692
受取利息配当金収入	212
経常支出計	370,834
人件費支出	290,602
事務費支出	18,125
事業費支出	60,914
借入金利息支出	692
経理区分間繰入金支出	500
経常活動資金収支差額	54,493
施設整備等収入計	0
施設整備等支出計	529
施設整備等資金収支差額	△ 529
財務収入計	0
財務支出計	50,990
財務活動資金収支差額	△ 50,990
当期資金収支差額合計	2,974
当期末支払資金残高	81,876

【光の家鍼灸マッサージホーム 資金収支計算書】

科 目	金 額
経常収入計	9,881
利用料収入	1,952
経常経費補助金収入	6,656
寄付金収入	117
雑収入	1,150
受取利息配当金収入	4
経常支出計	8,054
人件費支出	5,681
事務費支出	2,003
事業費支出	369
経常活動資金収支差額	1,826
施設整備等収入計	0
施設整備等支出計	0
施設整備等資金収支差額	0
財務収入計	0
財務支出計	1,520
財務活動資金収支差額	△ 1,520
当期資金収支差額合計	306
当期末支払資金残高	4,777

*各資金収支計算書 会計期間：(自)平成23年4月1日(至)平成24年3月31日 単位：千円(千円未満切捨)

法人事業

定款に定める施設事業体は次の四つであります。

①光の家新生園（障害者自立支援法による指定障害者支援施設（生活介護定員五四名・機能訓練定員六名・施設入所支援定員五五名・短期入所定員二名）

②光の家栄光園（障害者自立支援法による指定障害者支援施設（生活介護定員七〇名・就労継続支援B型定員一〇名・施設入所支援定員六〇名・短期入所定員二名）

③光の家神愛園（生活保護法による救護施設（定員八〇名）

④光の家鍼灸マッサージホーム（障害者自立支援法による盲人ホーム

更に、右四つの施設を統一的・総合的に結ぶ部門として総務部（総務課・医務課・食事課・地域交流センター）があり、又、全施設事業体に亘る横断的組織体をもって活動する十数余

りの専門委員会（例・防災活動委員会・安全衛生委員会・苦情解決委員会等々）があります。

又、地域福祉支援事業として同行援護従業者の養成事業を実施している福祉教育研修室の他に、地域福祉相談室、盲重複障害者福祉研究室、地域貢献活動室があり、地域サービスの振興・発展に貢献することを目的としています。

以下、各事業施設の活動状況等についてご報告いたします。

指定障害者支援施設

光の家新生園

光の家新生園の利用者は、視覚障害に加え、他の障害を併せ持つ盲重複障害者である。その障害の特性を考慮し、利用者やその家族のニーズに合わせた個別支援計画を策定して支援の充実を図った。

一、利用者支援

平成二三年度は、多種多様な利用形態で七名の新利用者を迎えた。東京都立文京盲学校

より一名、千葉県立盲学校より一名、東京都立八王子盲学校より二名、短期入所より施設入所への変更が一名、地域より機能訓練利用者二名を受け入れ、日中活動は六三名、施設入所支援は五五名でスタートした。その中の一名は、新生園と栄光園を利用する併用利用となる等、複雑な利用形態となった。

二、地域との交流

ミュージックトレーニングの名称で訓練を行ったバンド「ひまわり」が東日本復興支援チャリティコンサートや地域の行事に参加した。又、例年同様地域との交流行事（旭が丘ふれあい夏祭り・チャリティパーザー・愛のサウンドフェスティバル）が行われ、地域の方々の交流ができた。

三、職員研修の充実

今年度は、てんかんについてチーム研修を取り入れ、年間を通して、てんかん研修に参加し、職員の資質向上に努めた。その他、自閉症の研修や全国盲重複障害者福祉施設研究大会

等の外部研修に参加して、幅広い知識を得ることができた。

四、保護者との繋がり

今年度も五月、八月、十二月と保護者会を開催し、利用者の支援状況等を報告した。又、年二回の施設便りに加え、定期的に健康状況等を報告した。

指定障害者支援施設

光の家栄光園

光の家栄光園は、働くことの尊さと喜びを知るとともに、利用者の自立支援と社会活動への参加を促進することを目標に支援をしてきた。

一、利用者支援

平成二三年度は入所者が六二名、通所者が一七名の計七九名でスタートした。

今年度は、服薬や食事等に関して、きめ細やかな支援を心がけてきた。利用者の状況に合わせて職員の勤務体制や日課等の見直しを行った。又、入所利用から地域移行を希望する利用者に対して生活訓練等を行ってき

たが、年度末に一名が近辺のアパートで生活することができるようになった。又、三月から短期入所事業（二床）を開設し視覚障害を伴わない身体・知的障害の方の受入れを行うようになった。今後、地域の社会資源として有効に活用していただけるように努めたい。

就労支援は収入が、約三、四、六万円で年度当初目標にしていた四一〇〇万円に達することができなかった。点字出版関連の大口受注がなくなったことが主な要因であった。今後は新しい作業種目の開拓や営業に力を入れて作業収入増を図っていきたい。

二、地域との交流
恒例の地域との交流行事や正秋バンド、栄光園の「ショッブアガベ」の営業、地域のイベントへの参加等を通して地域の人々との自然なつながりを持つことができた。

三、職員研修の充実

専門性の向上を目指し内部研修の充実に力を入れると

もに、一一の外部研修に職員を派遣し多くの刺激を受けた。

四、保護者との繋がり

利用者の生活、施設の利用状況を家族に知っていたり、目的で「栄光園便り」「ミニ通信」を年三回送り、また年二回の保護者会と春の懇談会を開催し施設の状況報告や意見交換を行った。

救護施設

光の家神愛園

光の家神愛園では約八〇名が

生活しているが、多くの者は視覚障害に加えて、精神障害、アルコール依存症、知的障害等を併せ持つ、盲重複障害者である。平均年齢は六二歳。入所者の半数は六五歳以上の高齢者で、

障害だけでなく、加齢による機能低下で、生活の様々な場面でも介助を必要としているが、一人ひとりが人生を前向きに、

生き甲斐をもって送れるよう、個別支援計画を作成し、支援を行ってきた。

一、利用者支援

平成二、三年度は法人内の障害者支援施設より四名の利用者を受け入れた。

今年度も嘱託医の先生や医務課の協力を得て、健康管理に努めた。又、運動の時間を確保するために、新たに階段昇降の時間を設け、僅かな時間ではあるが、毎日継続して運動を行えるように日課を工夫した事で、平成二、三年度は四月に入所した者を含めて、一人も欠けることなく、全員揃って年度末を迎える事ができた。

二、地域との交流

散歩、作業の下準備、繕い物、行事ヘルパー等、今年度も数多くの地域の皆様ボランティアとして神愛園の活動を支えて下さり感謝である。行事を通して地域の皆様と交流を持つことができた。

三、職員研修の充実

救護施設関係の研修会に積極的に職員を派遣するとともに、今年度は実習指導者講習会にも職員を派遣することができた。

四、保護者との繋がり

八月と二月に保護者会を開催した。又、施設の近況をお知らせする為に、年に二回、施設便りを発行した。

盲人ホーム

光の家鍼灸 マッサージホーム

盲人ホームの目的は「あん摩マッサージ指圧師、鍼師、灸師の免許証を有する視覚障害者であって、自営または雇用されることの困難な者に利用させ、必要な技術等の指導を行い、その自立更生を図る」となっている。

平成二、三年度は男性三名女性四名（六月から男性二名、一〇月から女性三名）が施術業務に従事した。なお、鍼師の退職に伴い鍼師は不在となった。

施術実績は三二、六五件（前年度三一、五九件）で施術件数・金額共にやや増加した。施術者の資質向上のため、指導員講師に三療の技術及び接客全般に亘る心得について指導していた。